平成28年度「ワクワク学び隊」実践交流会　パネルディスカッション　質問①

番号	参加チーム名	「ワクワク学び隊」として活動した時にやりがいを感じていること	
		キーワード	理　　由
1	カモミール　ラマシカ	子どもたちの気付き	子どもたちはとても好奇心旺盛で新しいことを学ぶ事が楽しそうです。毎回新たな国の事を学び、それぞれの国の違いに気づく事も多々あり、そのような子どもの姿を見るとやりがいを感じます。
2	E-スクエア	進歩	最初は様々な外国人留学生に対して声が小さく積極的な態度が取れなかったが次第に身体でコンタクトをとったり自分から話しかけていく姿がみられるようになった。
3	青年ボランティアグループ カッターズ	子どもたちが 喜んでくれること	子どもたちのことが好きなスタッフが多いので自分たちが用意した活動で子どもたちが喜んでくれると本当にうれしい気持ちになります。
4	うぇるだん	子ども達の笑顔	子ども達が笑顔で楽しそうに活動に参加してくれたときに、活動に向けて準備をして、一緒に活動できてよかったと感じます。活動の準備を進める中では、子ども達に楽しんで活動してもらえるかどうか不安もありますが、子ども達の笑顔を見ると活動ができてよかったと感じます。
5	パペットサークルげんき組	子どもたちの笑顔	人形劇に対して子どもたちが何らかの反応を示してくれたとき、その後のふれあいの中で子どもたちから面白かったと笑ってもらえたときにやりがいを感じます。
6	メイプルみっつ	子どもたちの笑顔	何回も集まり意見を出し合い、試行錯誤を重ねたくさんの準備をして臨む教室は決して楽なものではありません。正直とてもつらいものがあります。そんな私たちを支えてくれる大きなものが子どもたちの笑顔です。子どもたちの笑顔こそが私たちの教室の原点であり、一番の活動成果なのです。
7	Team K	笑顔	子どもたちはもちろんメンバー全員が笑顔で楽しく活動できたから。
8	表現アクティビティ	子どもたちの反応、 自分の変化	毎回、子どもたちの元気な姿や笑顔に触れることができ、こちらが元気をもらいます。読み語りを真剣に聞いてくれたり、自分たちが用意した活動に一生懸命取り組んでくれているのを見て嬉しく思います。 子どもたちから「次、いつ来てくれるん？」とか「また来てね」と言われると、頑張ってよかったなと思います。 この経験が、様々な人と関わる力や子どもへの対応、人前で話す力など、保育者を目指す自分の力量を磨いてくれていると実感しています。
9	JCDキャロット	子供たちの笑顔	理科実験やモノづくりを通して、子供たちが「実験が楽しい」と感じてくれているという実感が持てるから。
10	安芸の子リーダー養成協会 KAPPA組	生き生きとした姿	子ども達と関わっていく中で、子ども達の生き生きとしている姿を身近で感じることができるため。
11	広島大学リズミックダンスクラブ	子供たちが 笑顔で踊っている時	自分たちが考えた振りに対して、子供たちが楽しそうに笑顔で踊っているのを見ると、やりがいを感じることができます。
12	ヒューマンハーモニックス部	笑顔	一生懸命練習して最後にみんなで歌って子供たちに「楽しかった」と言われたことやわくわく学び隊が終わって解散するときに「もっとうまくなるように練習したいから楽譜持って帰ってもいい？」と聞いてきてくれたこと。
13	警察庁指定防犯ボランティア団体 スリーアローズ	子ども達の前に立ち 実際に教える時です	子ども達に教える為には、自分自身で学んでいき理解しなければならなく、そして伝えていく能力も必要になり大変ではありますがとてもやりがいがあります
14	福山市立大学 室内オーケストラサークル	子どもたちが 楽しんでくれているとき	子どもたちが元気よく活動を行ってくれているときの笑顔にとても癒され、こちら側も元気が出るからです。

平成28年度「ワクワク学び隊」実践交流会　パネルディスカッション　質問②

番号	チーム名	「ワクワク学び隊」として活動した時に子供や教室関係者から学んだこと	
		キーワード	理　　由
1	カモミール　ラマシカ	子どもとの接し方	子どもたちが騒ぎ始めた時に一度その子の話をきちんと聞いてから「きちんと聞こうね」などと促している先生方の姿を見て学ばせて頂きました。
2	E-スクエア	人間関係	国を越えて自分からそれぞれのスタッフのタイプを理屈ではなく自然に人間関係を把握して対応する力が子どもにはあるということ。
3	青年ボランティアグループ カッターズ	準備の大切さ	やはり準備をきちんとしている活動は子どもたちも思い切り楽しめていると思う。指示を出す方が困ったり戸惑ったりしてしまうとそれが子どもにも伝わると思う。
4	うぇるだん	子どもへの声かけ	1・2年生が参加してくれた活動で、子ども達が、遊びに夢中になって指示が出せなかったときがありました。そのとき、子ども教室の先生が子ども達に「準備はいいかい？」と声をかけられると子ども達は「準備はいいよ」と言って聞く姿勢を作りました。楽しい雰囲気を大切にしながらも、聞く姿勢を作らせる言葉も大切だと感じました。
5	パペットサークルげんき組	広い視野と様々な工夫	子どもたちはとても素直でまた私たちの気づかないような所に気づく事もあります。やはりそんな子どもたちに楽しんでもらうためには広い視野で様々な工夫をしなければならないということです。
6	メイプルみっつ	臨機応変	どれだけ意見を出し合い試行錯誤をしたとしても当日の活動が自分たちの思い通りに進むとは限りません。むしろ進まないことの方が多いと言えます。そのような中で冷静にアドバイスをして下さる教室関係者の皆様、柔軟かつ大胆な考えをくれる子どもたちにはただただ頭が下がるばかりです。
7	Team K	メリハリ	活動中はやはり子どもたちに全力で楽しんでもらいたいけれどそれ以外の集合させたりする場面ではビシッと対応し活動とのメリハリをつけることが大切だと学んだから。
8	表現アクティビティ	子どもの可能性（子どもから）、 子ども理解（関係者から）	子どもたちは私たちを越える感性と創造性を持っていて、一緒に活動してこちらが気付かされることばかりです。生身の子どもに接しなければわからないような予想外の反応や発語は、私たちの視野を広げてくれ本当にいい勉強になります。子どもにはいろいろな面があるのに「この子はこういう子」と決めつけてはいけないなといつも考えさせられます。普段触れ合うことのない小学生の実態を知ることができ、生活に基づいた保育の重要性を痛感しています。（道具の使い方など） グループ別活動を予定している時、その子の性格や人間関係など普段の姿からあらかじめグループ分けや物品を用意していただいているので、活動をスムーズに進めていくことができ感謝しています。
9	JCDキャロット	準備と協力	参加するだけの立場では知ることのできなかったこと、より楽しんでもらうためには多くの方の尽力、様々な準備が必要なのだということを実感した。
10	安芸の子リーダー養成協会 KAPPA組	子どもたちに 合わせる	子ども達の様子や年齢に合わせて関わり方やレクの内容を変えていくことの大切さを学びました。
11	広島大学リズミックダンスクラブ	子供たちに 分かりやすく教える	難しい言葉や専門的な説明は子供たちに伝わらないので、体を使ったり分かりやすい言葉を用いたりして教えています。
12	ヒューマンハーモニックス部	喜び	アカペラを初めて聞くという子供たちも多いと思われる中でどのようにすれば楽しむことができるのか、飽きずに聞いてもらえるかを学んだ。また、子供たちとのふれ合い方を教室関係者から学んだ。
13	警察庁指定防犯ボランティア団体 スリーアローズ	子どもの立場になり 考えることです	子どもの立場になり考えることにより、何をしたら楽しく理解してもらえるかなど、どのように伝えたら良いか学ぶことが出来た。
14	福山市立大学 室内オーケストラサークル	興味を持つこと	私たちの活動に興味を持って参加してくれている姿は、物事に探求心を持ち、新たな事にチャレンジする心構えをいつも持っていかなければなあと思わせてくれました。

平成28年度「ワクワク学び隊」実践交流会　パネルディスカッション　質問③

番号	チーム名	「ワクワク学び隊」として活動した時の悩みや苦労，困っていること，大変だと思うこと	
		キーワード	理　　由
1	カモミール　ラマシカ	規律	子どもたちに思う存分楽しんでほしいという気持ちはありますが話を聞くときは聞くなどメリハリをもって参加してほしいです。どこまで厳しくすべきか悩んでいます。
2	E-スクエア	子どもの意欲持続	低・中学年が多く、集中力が続かない事、自分の興味があまりない活動には参加したがらないこと、(一種の病的症状だが)和を乱して自分本意にふるまう子どもが2～3名いること、学校の宿題に追われている。
3	青年ボランティアグループ カッターズ	活動場所が少し遠い、 アクセスが悪いこと	バスが一時間に一本だったり行くのに時間がかかったりするとどうしても行けるスタッフが限られてしまう。
4	うぇるだん	遊びから外れてしまった子ども	1・2年生が参加してくれた活動で、活動から外れて体育館の隅で寝転がってしまった子がいました。その子を活動に戻れるようにすることが難しかったです。
5	パペットサークルげんき組	悪役、怖い役	悪役を演じた際に子どもに泣かれてしまったことがあり怖がらせるつもりはなくてすごく困惑してしまったことがあります。そのあたりの加減の正解が解らないことです。
6	メイプルみっつ	教室経営の難しさ	子どもたちは理性より本能に忠実です。言いたいことを言い、したいことをする。教室としての縛りが弱い私たちの活動ではこのことが顕著に表れます。しかしこれを理由にして現実から逃げてはいけません。自分自身の未熟さを素直に認め、教室経営の力をつけることこそが大切だと考えます。
7	Team K	子どもの実態	子どもたちとは活動当日に初めて会うので子どもたちの実態が全然わからない状態で活動を考えます。いかに当日の子どもたちに臨機応変に対応できるようにするのか考えるのに苦労した。
8	表現アクティビティ	時間調整、距離	資格・免許を取得するためにたくさんの必修科目があるので、授業期間中は行きたくても時間が合わないことがあります。遠いところなど、授業後急いで行くこともあり忙しいうえ、今年は市内出身者の参加があまり多くなく、休み中は帰省する人も多いので、休み中の参加者を探すのに苦労しました。
9	JCDキャロット	計画と行動	活動を実施するにあたり、他人と協力しあうことや、当日までにどうしなければならないかを計画して行動することが大変だと感じる。
10	安芸の子リーダー養成協会 KAPPA組	参加日時	平日に行われるワクワク学び隊には参加することが難しいため、長期休暇に多く参加できるようにしています。
11	広島大学リズミックダンスクラブ	子供たちが言うことを 聞いてくれない	振りを教える際に、子供たちが騒いだり遊んでいたりすると自分たちの説明が聞こえなくなるため、その時は苦労します。
12	ヒューマンハーモニックス部	みんなで楽しむ	子どもたちにアカペラを体験してもらう企画があり、アカペラのパート通りvo，cho1,2,3,ba,vpのグループに分けて活動するのに引っ込み思案な子、なんでもやりたい子といてみんながみんな楽しめる空間作りが難しい。引っ込み思案な子も一緒に楽しむために友達のいるグループで一緒に参加してもらうようにしている。
13	警察庁指定防犯ボランティア団体 スリーアローズ	教室を行う為の計画を 立てることが大変です	より良い教室にする為、メンバーと共に教室の内容を考えるのですが、台本や教材を準備をするのが大変です。
14	福山市立大学 室内オーケストラサークル	話を聞いてもらうこと	子どもたちの中には、意識が次に行う活動に向いていない子もいて、活動に参加してくれている子どもたち全員に落ち着いて話を聞いてもらえる雰囲気作りが必要だと思いました。

平成28年度「ワクワク学び隊」実践交流会　パネルディスカッション　質問④

番号	チーム名	「ワクワク学び隊」として活動する時に工夫していること	
		キーワード	理　　由
1	カモミール　ラマシカ	規律	子どもたちが留学生のお話をきちんと聞けるようにイスに座って話を聞くようにしています。そうすることにより話を聞くときは聞く、遊ぶときは遊ぶなどけじめをつけられるようにしています。
2	E-スクエア	活動内容の面白さ	アフリカ、アジア、中南米などからの大学院留学生をいろいろ組み合わせ、出身国や国の様等、様々な言語表現を知り、相互理解のために直接触れ合うことで楽しく興味を増していけるよう内容を工夫している。
3	青年ボランティアグループ カッターズ	活動先の人との連携	より良い活動が出来るように場所の状況や子どもの人数を確認してほしいものなどがあればお願いしたりしている。そうすることで当日の活動がスムーズに。
4	うぇるだん	楽しさ	子ども達の遊びを広げられるような活動を考えています。子ども達が活動に参加してくれる中で、初めてする遊びも「おもしろい」「楽しい」と感じてくれるように準備をしています。
5	パペットサークルげんき組	全ての子に 楽しんでもらいたい	「子ども」と一口に言っても特に年齢に差がある場合には楽しいと思うものがかなり変わってくることがあります。そういう場合にもその場にいるすべての子が楽しんでくれるような活動にできる様考えています。
6	メイプルみっつ	飽きない飽きさせない	1時間や2時間の活動は私たち大人からすればほんの短い時間のように感じるかもしれません。しかし普段45分の授業を受けている子どもたちからすればとても長く感じると思います。「子どもたちを飽きさせない、また自分たちも飽きない」活動を心掛けて私たちは教室に臨んでいます。
7	Team K	あだ名（ニックネーム）	子どもたちにすぐに親しんで心を開いてもらえるようにメンバーの名前をあだ名で呼び合い子どもたちにもあだ名で呼んでもらえるようにしていた。
8	表現アクティビティ	発達、表現、季節感、 仲良し、チームワーク	毎回いろんな子供たちと会うので、固定観念にとらわれず、子どもが自己解放し想像の翼を広げて放課後の時間を過ごせるよう考えたいと思っています。発達（手指操作、全身）の観点からも、工作して表現する活動を多く取り入れ、自分が作ったもので体全体を動かして遊ぶようにしています。また、生活に根ざした季節を感じる遊びや絵本などを毎回話し合って選び考えて持っていきます。かつての子どもも経験した伝承遊び、日本の四季折々の変化や行事等を感じながらみんなで聴く絵本・紙芝居の読み語りなども多く取り入れています。 何より、子どもたちと仲良くなりたいと思っていますし、活動を通じて子どもたち同士ももっともっと仲良くなってもらえると嬉しいです。 子どもたちや子ども教室の方々と楽しいひと時を過ごすために、参加する私たち学生は毎回メンバーが違いますが、チームで打ち合わせをし協力して準備や練習を行います。私たちのチームワークが良いと感じてもらえるといいな、それが子どもたちに伝わるといいな、と思っています。
9	JCDキャロット	ポジティブ	困ったときや悩んでいるときに、常にポジティブ（前向き）に考えて物事に望むようにしている。
10	安芸の子リーダー養成協会 KAPPA組	レクリエーション	子ども達同士をつなげられるようなレクリエーションを事前に担当の方々と打ち合わせを行ったうえで、工夫して考えています。
11	広島大学リズミックダンスクラブ	メリハリをつける	ダンスを踊る時はしっかり踊り、休憩の時は休んだり子供たちと一緒に遊んだりすることで、集中して教えることができます。
12	ヒューマンハーモニックス部	選曲 子ども目線	（ヒューマンハーモニックス部として）子どもたちの前で歌を歌うのに、どのようにしたら楽しんでもらえるのか選曲など子ども目線でのステージ進行を考えるのが大変。子供たちが笑ってくれたときに達成感がある。
13	警察庁指定防犯ボランティア団体 スリーアローズ	レクリエーションを混ぜながら 学ぶことをしています	座学ばかりであると飽きが生じてしまい集中が切れてしまうので、なるべくクイズやグループ作業をしてもらい、体を動かしながら学ぶことをしています。
14	福山市立大学 室内オーケストラサークル	子どもたちの 記憶に残る活動	演奏する曲を子どもたちの流行りの曲を選んだり、活動の終わりにステッカーをプレゼントするなど、活動したことを覚えてもらって、弦楽器に興味を持ってもらいたいと思っています。